

令和 5 年 5 月 30 日現在

機関番号：13301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K00100

研究課題名(和文) マキアヴェッリとフィレンツェの政治文化 - 社会形成に 神 は必要か

研究課題名(英文) Machiavelli and Florentine Political Culture: Is ``God'' Necessary for Social Formation?

研究代表者

石黒 盛久 (Morihisa, ISHIGURO)

金沢大学・歴史言語文化学系・教授

研究者番号：50311030

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：関西大学法学研究所の助力により、21年12月、本研究課題を議題に掲げ大規模なシンポジウムを立ち上げ、その成果を予稿集として刊行し、その後もそれを土台に引き続き各分担視野により海外におけるそれを含む公刊・発表を実現した。コロナ禍による研究の停滞により当初の目標であった論集公刊には至らなかったが、本共同研究を継承する科研費共同研究も展開中であり、その成果をも踏まえて本年度中の論集公刊を目指したい。そこにおいては通常、政治の脱宗教化の嚆矢とされるマキアヴェッリの思想が如何に宗教を根底的原動力とするものであるか、またそれを通じ宗教が昨今の政治にあっても如何に決定的な規定要素たり得るかが示されよう。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の申請前後に国際外交の耳目を賑わせていたのが所謂イスラム国の台頭であった。また直近のウクライナ戦争の規定要因として、ロシア正教文化圏とローマ・カトリック文化圏の文明の使用等を指摘する向きもある。また我が国における政治政党と宗教団体の依存関係を巡る論争も記憶に新しい。そのように一旦脱宗教化したと思われた近代政治が、依然宗教的なものの呪縛にとらわれていることを目の当たりにしたとき、近代政治における政治的なものと宗教的なものの相関を、従来の政治の脱宗教化の議論の成果を止揚しつつ、より柔軟なものとして再構築することは、今後の政治の姿を見通す上でも極めて現代的意義を持つものと考えられる。

研究成果の概要(英文)：In December 2021, with the help of Kansai University Law Research Institute, a large-scale symposium was launched concerning to this research topic, and the results were published as a proceedings. Unfortunately, due to the stagnation of research caused by the corona crisis, we did not realize the supposed final goal of publishing a collection of papers. But thanks to the Grants-in-Aid for Scientific Research offered again we have begun another new joint research which develops this research program concluded in this year. So, we aim to publish a collection of papers suggested above within this year based on the results of this continued research. Through this continued research project, we would like to try to discuss more profoundly how Machiavelli's thought, which is usually regarded as the beginning of the secularization of politics, uses religion as a fundamental driving force, and, more generally, how religion plays a decisive role in the contemporary political phenomenon.

研究分野：政治思想史・西洋文化史

キーワード：マキアヴェッリ 政治思想 ルネサンス文化 イタリア フィレンツェ史

1. 研究開始当初の背景

政治の脱宗教化は即ち政治の近代化と同義語とみなされてきた。近代の政治をめぐる思想と制度の歴史は、又はこの脱宗教化の実現を目指す長い過程として把握され、マキアヴェッリの政治思想の思想的意義はその始点を示す点に求められてきた。だが本研究を申請する前後相次いで世の耳目を集めた、パリのシャルリ・エド襲撃事件やイスラム国の勢力拡大は、現代においても宗教と政治の切断が、必ずしも当然の現象ではないことを白日の下にさらした。もちろん現代において政治と宗教の連関は、古代の神政政治や近世初頭の王権神授説のような単純かつ明白なものではない。この近代における政治と宗教の屈折した関係を抉り出すことを通じて、今日ある種の行き詰まり状態を呈している、近代民主主義政治を再活性化する一つの理路を開削することこそ、本研究「マキアヴェッリとフィレンツェの政治文化 - 社会形成に 神 は必要か」の企図するところであった。その現代性は、昨今の「文明の衝突」としてのウクライナ戦争や、わが国政治に対する一部宗教団体の影響力をめぐる論争からも、更に切迫したものとなっていると判断する。

2. 研究の目的

上記「研究開始当初の背景」に提示した問題意識を踏まえ、合理的表層の深奥において政治を潜在隠蔽された形で支え続けている宗教の機能を、政治の脱宗教化の起源とされるマキアヴェッリの政治思想を、「社会形成に 神 は必要か」という問いのもと、改めて精査し直すことを媒介に抽出しようとする点に、本研究の目的は存する。このような試みは政治と宗教の単に現代的な相関を超え、むしろ時間を超越したその継続的な補完性を明らかにする。更にそれに加えて、近代の暮れ方たる21世紀にあって、従来「近代政治学の祖」と価値づけられてきたマキアヴェッリの政治思想をなぜなお学ぶのか、その新しい意味と価値と魅力を発見するという、思想史研究上の意味をも有している。

3. 研究の方法

上述のように本研究は、マキアヴェッリ思想の思想史上の意味の21世紀的再評価を究極の目的とするが、方法的にはポーコック、スキナーら英米圏のマキアヴェッリ研究者(特に鹿子生)、サツコ、カドーニらイタリア系の研究者(特に石黒)双方にまたがる、歴史的環境を前提にマキアヴェッリの思想の形成過程の把握を介したその意図解釈に目標を据えた(この二つの研究の系譜は、方法的に近似したものでありながら、その歴史状況理解については明白に相違している)。ただし独創的な思想の理解は単なる状況反映論では解決が付くものではなく、状況を超える思想家独自の飛躍の瞬間を読み抜く感性が欠かせない。そうした点を補ったのが、シュトラウスによる解釈学的なテキスト読解の観点(厚見/村田)である。

4. 研究成果

コロナに起因する研究活動の停滞により残念ながら、本研究期間中には最終的な成果への到達に至らなかったが、関西大学法学研究所の支援を受けて実現したシンポジウム「マキアヴェッリとフィレンツェの政治文化 - 社会形成に 神 は必要か」等により、その途中経過はある程度世に問えたと思う。その成果は同研究所より刊行された予稿集(関西大学法学研究所『ノモス』47号)所載の、研究分担者四名の投稿(石黒「マキアヴェッリ研究の『根掘り論』と『先取り論』: 解釈上のオセロ・ゲーム」、厚見「マキアヴェッリと原始主義: マキアヴェッリにおける『始まり』の問題」、鹿子生「プラトン主義・サヴォナローラ・哲人王」、村田「若きシュトラウス: 神学・政治問題の起源について」)にも示されているが、この間に代表者・石黒による『金沢大学歴史言語文化学系論集 史学・考古学篇』所載の「マキアヴェッリの宗教 - その政治哲学における暴力と愛」と「マキアヴェッリ政治思想における市民的心性の宗教的起源 - 16世紀フィレンツェの政治文化を背景に」という二本の論考(11号・15号)、鹿子生による『関西大学法学研究所研究叢書』所載の論文「ルネサンス共和主義からフランス啓蒙へ: マキアヴェッリとモンテスキューの歴史解釈」、村田により『世界史研究論叢』(11号、12号)に掲載された、シュトラウスの宗教観をめぐる論考の訳業(「翻訳 なぜ我々はユダヤ人でありつづけるのか: ユダヤ教の信仰と歴史はなお我々に語りかけることができるのか?」)等によってもさらに発展されている。

またこの間コロナ下にあっても ZOOM 等を利用し毎年2~3回程度の勉強会を実施し、古典テキスト解釈上の難所につき、極めて啓発的な共同討議を実現することができた。こうした精読に向けた相互訓練は、こうした「読み」の精度の深さに依存するところの大きい思想史研究において、分担者各自の研究の水準を高めることに極めて効果的であった。特に昨年9月に定森亮氏を招きその新著『共和主義者モンテスキュー 古代ローマをめぐるマキアヴェッリとの交錯』を素材に行った合評会は、同書に対する石黒(『神奈川評論』)、厚見(『社会思想史研究』)の書評及び鹿子生の上記論文に結実し、分担者相互の研究の共通の土台の創出に寄与した。

本共同研究はその更新に至り研究の進展を踏まえ、若い研究者の補助的参加を通史で一層の活力を得た。研究協力者の村木は「マキアヴェッリの『ペスト書簡』」(『日伊文化研究』)の執筆に加え、「マキアヴェッリの歴史的思考 - ハンニバルとスキピオという範例をめぐって」という口頭発表を行っているが、この口頭発表はマキアヴェッリの立法者論との連関において、本発表の核心に深くかかわる研究成果

である。いま一人の研究協力者の横尾祐樹氏は本研究期間中に、「マキアヴェッリの聖書宗教批判：神的な立法者への懐疑とローマ国制への再評価」(『年俸政治学』)並びに「レオナルド・ブルネーニにおけるプラトン受容と祖国への義務履行：応酬性・霊魂不滅・徳の教育」(『政治思想研究』)という二編の論考を公表しているが、これらがマキアヴェッリを軸とするルネサンス期の政治と宗教の相関の分析を核とした研究として、本共同研究の一端を担うものであることは言うまでもない。

これらの成果を含め、上記の三つの方法の適切な組み合わせを通じて、マキアヴェッリの思想をこれまで以上に柔軟かつ複眼的に解釈することにより、マキアヴェッリ政治思想のこれまで解明されなかった真相を、なかんずくその立法者論を焦点とする政治と宗教の連関への着目を通じて、抉出する端緒はつかめたと考える。本共同研究は本年度で完了するものの、その主題は上記村木氏並びに横尾氏という優秀な若手研究者の新たなる参画を得つつ、現在継続中の共同研究「ルネサンス期における預言と政治学 - マキアヴェッリの政治観と フィレンツェの神話」に継承され、その成果は近日中研究論集の刊行として世に問われる予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計25件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 石黒盛久	4. 巻 11
2. 論文標題 【翻訳と注解】1513年12月24日付 ヴェットーリ書簡	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 世界史研究論叢	6. 最初と最後の頁 81-87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石黒盛久	4. 巻 14
2. 論文標題 【翻訳と注解】1514年1月18日付F・ヴェットーリ発N・マキアヴェッリ宛書簡	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 金沢大学人間社会学研究域学校教育系紀要	6. 最初と最後の頁 125-131
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鹿子生浩輝	4. 巻 66
2. 論文標題 ルネサンス共和主義からフランス啓蒙ヘーマキアヴェッリとモンテスキューの歴史解釈	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 関西大学法学研究所研究叢書	6. 最初と最後の頁 1-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村田玲	4. 巻 11
2. 論文標題 翻訳 「なぜ我々はユダヤ人でありつづけるのか：ユダヤ教の信仰と歴史はなおも我々に語りかけることができるのか？」（1/2）レオ・シュトラウス、村田玲訳	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 世界史研究論叢	6. 最初と最後の頁 101-109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石黒盛久	4. 巻 13号
2. 論文標題 【翻訳と注解】フランチェスコ・ヴェットーリ発ニッコロ・マキアヴェッリ宛書簡（1513年6月27日/ 1513年8月5日）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 金沢大学人間社会研究域学校教育系紀要	6. 最初と最後の頁 39-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 石黒盛久	4. 巻 25
2. 論文標題 翻訳と注解 F・ヴェットーリのマキアヴェッリ宛書簡（1514年12月3日～1515年1月16日）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 金沢大学国際基幹教育院外国語教育系 言語文化論叢	6. 最初と最後の頁 149-165
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 石黒盛久	4. 巻 47
2. 論文標題 マキアヴェッリにおける「宗教と暴力」再考	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ノモス	6. 最初と最後の頁 145-155
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鹿子生浩輝	4. 巻 47
2. 論文標題 プラトン主義・サヴォナローラ・哲人王	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ノモス	6. 最初と最後の頁 156-165
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 厚見恵一郎	4. 巻 47
2. 論文標題 マキアヴェッリと原子主義 - マキアヴェッリにおける「始まり」の問題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ノモス	6. 最初と最後の頁 165-175
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村田 玲	4. 巻 47
2. 論文標題 若きシュトラウス-進学・政治問題の起源について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ノモス	6. 最初と最後の頁 175-188
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石黒盛久	4. 巻 3
2. 論文標題 マキアヴェッリにおける「暴力と宗教」再考	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 石川県立大学紀要	6. 最初と最後の頁 65-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ニコロ・マキアヴェッリ / 石黒盛久	4. 巻 9
2. 論文標題 F・ヴェットーリのマキアヴェッリ宛書簡(1513年3月15日～4月19日)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 世界史研究論叢	6. 最初と最後の頁 115-121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ニッコロ・マキアヴェッリ / 石黒盛久	4. 巻 12
2. 論文標題 翻訳と注解 1513年4月21日付 F・ヴェットーリ発マキアヴェッリ宛書簡	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 金沢大学人間社会学域学校教育系紀要	6. 最初と最後の頁 71-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鹿子生浩輝	4. 巻 85
2. 論文標題 「マキアヴェッリとグイッチャルディーニ - 二つの共和国論」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 法政研究	6. 最初と最後の頁 481-506
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 レオ・シュトラウス / 村田玲 (翻訳)	4. 巻 26
2. 論文標題 ニーチェの『善悪の彼岸』の計画についての覚書	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 政治哲学	6. 最初と最後の頁 49-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 レオ・シュトラウス / 村田玲 (翻訳)	4. 巻 27
2. 論文標題 イェルサレムとアテナイ - 若干の予備的な諸考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 政治哲学	6. 最初と最後の頁 210-228
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石黒盛久	4. 巻 11
2. 論文標題 マキアヴェッリの宗教 - その政治哲学における暴力と愛	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 金沢大学歴史言語文化学系論集	6. 最初と最後の頁 49-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石黒盛久	4. 巻 23
2. 論文標題 ルネサンス期における友人関係と 自己 の演出 - マキアヴェッリのヴェットーリ宛書簡(2013-2015)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 言語文化論叢	6. 最初と最後の頁 149-172
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Morihiisa ISHIGURO	4. 巻 03/2018
2. 論文標題 La fortuna di Machiavelli in Giappone dal 1868 al 1945: Kitaro Nishida e il problema della 《Ragion di Stato》	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Rivista di politica	6. 最初と最後の頁 13-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Morihiisa ISHIGURO	4. 巻 11
2. 論文標題 Botero como critico de Maquiavelo: Algunas consideraciones sobre diversos aspectos del pensamiento politico italiano de finales del siglo XVI	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 金沢大学人間社会学域学校教育系紀要	6. 最初と最後の頁 63-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石黒盛久	4. 巻 824
2. 論文標題 G・ボテロと国際政治経済学の誕生: 『都市盛衰原因論』の国際思想史	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 16-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 厚見恵一郎	4. 巻 42
2. 論文標題 書評: 村田玲『喜劇の誕生 - マキアヴェッリの文芸諸作品と政治哲学』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 社会思想史研究	6. 最初と最後の頁 132-135
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akira Murata	4. 巻 03/2018
2. 論文標題 L'umana commedia di Machiavelli: pensieri chiave per capire le maggiori opere politiche	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Rivista di politica	6. 最初と最後の頁 35-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akira Murata	4. 巻 24
2. 論文標題 Machiavelli's La Umana Commedia: Key Thoughts on Understanding his Major Political Works	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Journal of Political Philosophy	6. 最初と最後の頁 35-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鹿子生浩輝	4. 巻 85:2-3
2. 論文標題 「マキアヴェッリとグイッチアルディーニ 二つの共和国理論」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 法制研究	6. 最初と最後の頁 101-126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 村田玲
2. 発表標題 レオシュトラウスの論文「なぜ我々はユダヤ人でありつづけるのか：ユダヤ教の信仰と歴史はなおも我々に語りかけることができるのか？」について
3. 学会等名 マキアヴェッリ研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鹿子生浩輝
2. 発表標題 「立法者の暴力と嘘：政治的古典における理論と実践」
3. 学会等名 政治思想学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 鹿子生浩輝
2. 発表標題 「マキアヴェッリとプラトン 立法者・サヴォナローラ・プラトン主義」
3. 学会等名 九州大学政治研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Morihiisa ISHIGURO
2. 発表標題 The Violence and Religious Covenant in Machiavelli
3. 学会等名 International Symposium "Religion and Violence in Medieval and Early Modern Europe": Waseda University, Institute for European Medieval and Renaissance Studies (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石黒盛久
2. 発表標題 「マキアヴェリにおける暴力と宗教的誓約」
3. 学会等名 「マキアヴェリと宗教 社会・国家形成に 神 は必要か」/ 関西大学法学研究所 第55回公開講座
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鹿子生浩輝
2. 発表標題 プラトンとマキアヴェリ
3. 学会等名 新プラトン主義協会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鹿子生浩輝
2. 発表標題 「マキアヴェリにおける立法者と神」
3. 学会等名 「マキアヴェリと宗教 社会・国家形成に 神 は必要か」/ 関西大学法学研究所 第55回公開講座
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 厚見恵一郎
2. 発表標題 「マキアヴェッリと原始主義 マキアヴェッリにおける「始まり」の問題」
3. 学会等名 「マキアヴェッリと宗教 社会・国家形成に 神 は必要か」/ 関西大学法学研究所 第55回公開講座
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石黒盛久
2. 発表標題 ルネサンス期における友人関係と 自己 の演出 - マキアヴェッリのヴェットーリ宛書簡(2013-2015)
3. 学会等名 社会史研究会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 石黒盛久（喜田いくみと共訳）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 論創社	5. 総ページ数 270
3. 書名 『イタリア・ルネサンスの世界』	

1. 著者名 Stefano Baldassarri ed.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Tab Edizione	5. 総ページ数 2019
3. 書名 Guerra di religione e propaganda 1350-1650	

1. 著者名 野山雅弘 山本圭 高山裕二 編著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 216
3. 書名 よくわかる政治思想	

1. 著者名 鹿子生浩輝	4. 発行年 2019年
2. 出版社 岩波書店(岩波新書)	5. 総ページ数 253
3. 書名 マキアヴェッリ - 『君主論』1をよむ』	

1. 著者名 石崎嘉彦 / 厚見恵一郎	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 352
3. 書名 レオ・シュトラウスの政治哲学: 『自然権と歴史』を読み解く	

1. 著者名 村田玲	4. 発行年 2018年
2. 出版社 社会評論社	5. 総ページ数 264
3. 書名 『支配の政治理論』(「マキアヴェッリの支配論 その近代性に関する若干の指摘」)	

1. 著者名 G・ボテロ 石黒盛久訳	4. 発行年 2019年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 216
3. 書名 都市盛衰原因論	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	厚見 恵一郎 (ATSUMI KEIICHIRO) (00257239)	早稲田大学・社会科学総合学院・教授 (32689)	
研究分担者	鹿子生 浩輝 (KAKOO HIROTERU) (10336042)	東北大学・法学研究科・教授 (11301)	
研究分担者	村田 玲 (MURATA AKIRA) (20507892)	金沢大学・歴史言語文化学系・客員研究員 (13301)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	村木 数鷹 (MURAKI KAZUTAKA) (40962030)	東京大学・法学政治学研究科・特別研究員(DC1) (12601)	
研究協力者	横尾 祐樹 (YOKOO YUKI) (40962030)	早稲田大学・政治経済学術院・助手 (32689)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
イタリア	Centro Studi Giovanni Botero			